

令和5年度 坂ノ市圏域 地域連携検討会 報告書

1 日 時： 令和5年7月21日（金）18:30～20:00

2 会 場： 坂ノ市公民館 研修室2・3

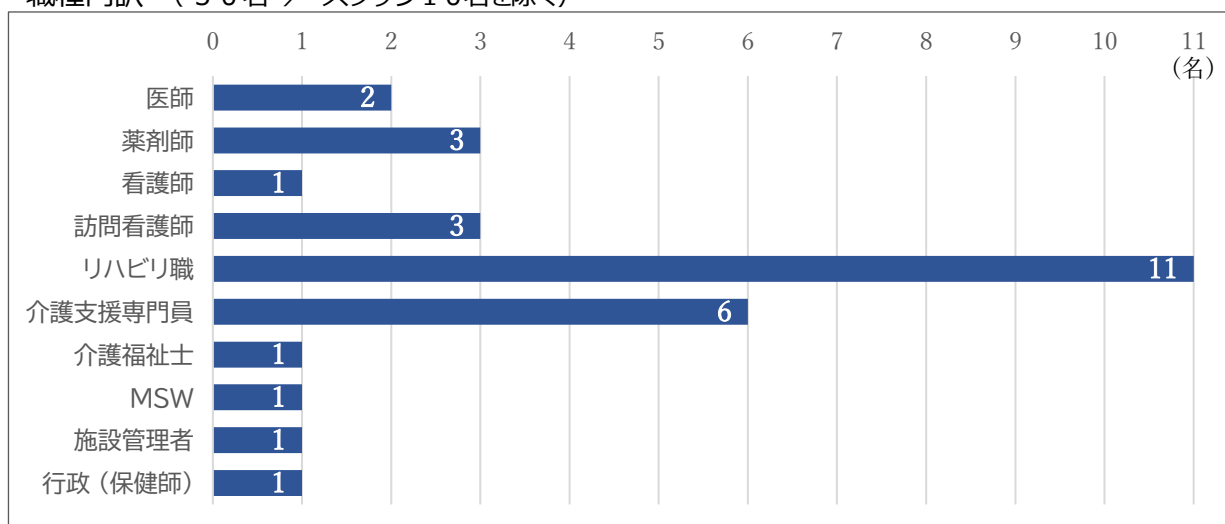
3 テー マ： 「医療と介護 お互いの強みを知って連携を図ろう！」

4 発 表：

- ・「訪問診療の実際」 坂ノ市病院 医師 管 聡 先生
- ・「地域密着型の薬局」 坂ノ市杉原調剤薬局 薬剤師 佐々木 瑛治 氏
- ・「ケアマネジャー業務と訪問栄養指導」 居宅介護支援事業所 あさかぜ 介護支援専門員／管理栄養士 小野 朝子 氏
- ・「訪問リハビリと私たちの強み」 坂ノ市病院 訪問リハビリテーション部 認定理学療法士 山之上 功治 氏

5 参加者数： 計40名

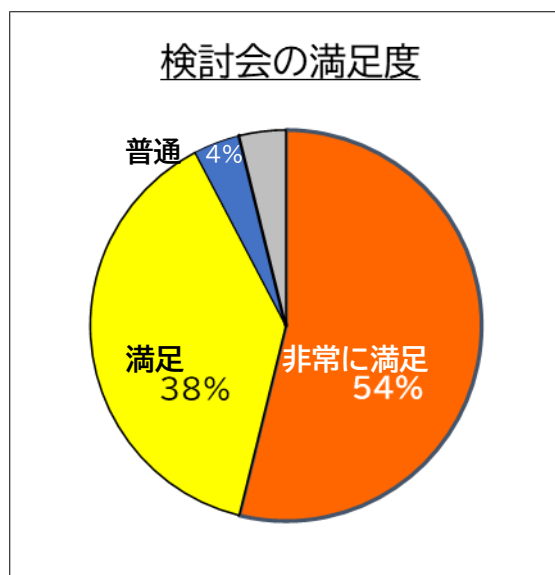
職種内訳（30名 / スタッフ10名を除く）



6 アンケート集計結果（有効回答数：26）

問1. 満足度

非常に満足	14	(人)
満足	10	
普通	1	
不満	0	
未回答	1	



問2-1. 開催方法・開催規模について

- ・顔の見えることが連携につながる。参集型の会の重要性を感じた。[医師]
- ・医師と直接話すことができ、連携に対する価値観を聞くことができて良かった。[リハビリ職]
- ・医師や保健師が参加されていてびっくりした。「本当に多職種連携になっている」と感じた。[リハビリ職]
- ・今後益々医療と介護の連携が重要になっていく中で、同じ圏域の方々と直接お会いして話しができたことは、とても良い機会になった。[リハビリ職]
- ・もっと色々な医療機関や介護事業所の方が参加していれば、より良い検討会になったと思う。[リハビリ職]
- ・久しぶりの対面方式で、Zoomよりも活発に意見交換ができた。[薬剤師][介護福祉士]
- ・他事業所の方との顔合わせができた。[訪問看護師]
- ・他事業所の強みについて、直接話しを聞くことができて良かった。[MSW]
- ・対面式も、開催規模も良かったと思う。[リハビリ職][介護支援専門員]
- ・対面とオンラインのハイブリッド開催であると、もっと多くの職員が参加できると思う。[リハビリ職]
- ・他職種と顔を合わせて意見が言えたので、今後も付き合いやすくなったと思う。[リハビリ職]

問2-2. テーマ設定について

- ・連携は非常に大事なので良いと思う。[薬剤師]
- ・各々の職種の強みが聞けたので良かった。／各事業所のことがよく分かる、良い機会になった。[多数意見]
- ・身近なコミュニティだからこそ、お互いの強みを知ることで、より連携し易くなると思う。[リハビリ職]
- ・とても良いテーマ設定だと思った。[リハビリ職]
- ・地域包括ケアシステムの構築・推進には、連携というワードが欠かせない。その意味では、今回のテーマ設定は良かったと思う。[介護支援専門員]

問3. 今回参加して、改めて気づいたことや、今後の業務の参考になると思われること

- ・連携先の強み・弱みを知ることで、連携がうまく行くこと。また、認識以上の努力を引き出せることができれば良いと思う。[医師]
- ・訪問診療での治療の実際を知ることができて、とても参考になった。[リハビリ職]
- ・学びが沢山あった。他事業所の強みを知ることができた。[訪問看護師]
- ・多くの方のお世話になっているのだと感じた。感謝している。[医師]
- ・連携には、情報の共有が重要であると感じた。顔の見える関係を通して今後の連携をより良いものにしたい。[薬剤師]
- ・他職種の問題点など日頃わからないので、今後は意識できるようになると思った。[薬剤師]
- ・情報共有の大切さ、そして効率化。[リハビリ職]
- ・薬剤師の役割や、できる事を知ることができた。[複数意見]
- ・「コロナ前に比べて、入院患者の状態を気軽に把握できない」という意見があり、情報収集に難しさがあると感じた。[リハビリ職]
- ・連携、と一言で言っても、職種によって様々であることが分かって、今後の強みになると思った。[リハビリ職]
- ・顔の見える関係作りが必要と感じた。[介護支援専門員]
- ・情報共有は、SNSなどを使うことでスピーディーに行えること。[複数意見]
- ・参加者のほとんどが、顔見知り。これこそ坂ノ市の強みだと思う。[介護支援専門員]
- ・坂ノ市の方々のあたたかさ。[介護支援専門員]
- ・「坂ノ市圏域で良かった」と思えた。
- ・事業所の活動内容やホームページ URL（配布資料に掲載）を知ることができ、今後、住民の方から相談があった際に活用できると思った。[保健師／行政]

問4. 今後の地域連携検討会に期待するテーマ

- ・他の圏域のサービスを理解したい。坂ノ市圏域でできること（できないこと）が分かることで、他圏域の力を借りることもあると思うので。[医師]
- ・最近、終活(ACP?)の必要性を強く感じている。地域で情報共有できたらと思う。[訪問看護師]
- ・ACPについて [リハビリ職]
- ・困難事例 [訪問看護師]
- ・事例検討会 [リハビリ職]
- ・情報共有の仕方や工夫。これは今後絶対必要になると思っている。[リハビリ職]
- ・個人情報管理について。個人と関わる上で、他事業所がどんなことに配慮しているかを知りたい。[リハビリ職]
- ・認知症ケア [リハビリ職]
- ・歯科も交えての連携について。[リハビリ職/ST]
- ・それぞれの職種で困っていることや、どうすれば連携がうまくいくのか。[介護支援専門員]
- ・連携について、もっと展開してほしい。

問5. 日々の業務の中で、多職種連携について感じていること

- ・他業種（他職種）の理解を深めることを行っていきたい。[医師]
- ・専門職皆さんに来院してもらうことで患者の状態がよく分かるので、とても助かっています。[医師]
- ・情報共有し易い関係作りに取り組んでいきたい。[薬剤師]
- ・坂ノ市の多職種の皆さんは、親切で、患者様のことをよく考えてされているので助かっています。[薬剤師]
- ・坂ノ市地区は連携が取れている方だと思う。こういう会を続けることで連携は深まるのでは。[薬剤師]
- ・入院した方の顔を見たい。[訪問看護師]
- ・コロナの影響で退院前の情報共有ができなくなっています。在宅へ向けての準備がもう少し早めに行けたらと思います。[訪問看護師] [介護支援専門員]
- ・MCS（メーカカステーション）を一部使っています。とても良いツールだと思います。他事業所連携もスムーズに行えています。[リハビリ職 2名]
- ・情報共有ツール（ICT）の活用ができれば便利になると思う。[リハビリ職] [介護支援専門員]
- ・医師ともっと関われる場 [リハビリ職]
- ・情報提供書の内容や、どんな内容が欲しいかを知りたい（入院中→退院時の情報提供）。[リハビリ職]
- ・様々な情報をまとめる事は大変だと思うが、今後も専門職として意見が言えるよう努めたい。[リハビリ職]
- ・倫理的なことで他職種と意見が合わないことがある。そういう時こそ話し合いの場を設ける等の工夫が必要だと思う。[リハビリ職]

----- アンケートからは以上です。 -----

7 グループワークで出た意見

当事業所の強み、連携で工夫していること

[薬剤師]

- ・情報をいただければその日のうちに医師へフィードバックを行い、対策がとれる。（服薬中止による副作用減 等）
- ・薬剤師が、医師とケアマネとの間に／ケアマネが、医師と薬剤師との間に入る等して、連携を図っている。

[介護福祉士]

- ・ヘルパーは利用者の身近に居て気付きも多い。ケアマネジャーや家族に報告できるよう、色々と能力を上げていきたい。

[訪リハ PT]

- ・訪問して 1 対 1 で、40 分かけてリハビリを行う。自宅で行うことで、痛みや家の中の異変に気付いたり、家族と関わることができる。週 1～2 回だが、訪問することで利用者の変化をみることができるのが強み。

[病院 PT]

- ・居宅ケアマネにつなぐ時は必ず添え書を用意し、用語もできるだけ分かりやすいものをつかう。

[介護支援専門員]

- ・特定疾患を持つ利用者については、他事業所とアプリを使って連携を取っている。

[訪看]

- ・「地域密着型」をうたって地域に根差した活動を続けられている薬局に対し、親しみを持っている。
- ・同一法人内での連携が強み。

他事業所に期待すること

- ・連携では介護事業所に助けてもらうことも多い。利用者・患者のことで緊急度の高い時は、文書を直接持って来られることもある。[医師]
- ・医師の存在は大きい。[介護支援専門員]
- ・ケアマネジャーのアセスメントシートがあると、質や成功率が上がるため、大変有難い。在宅は情報が命。[薬剤師]
- ・相手の強み・得意とすることを知ることが大切。利用者が爪の処置に困っていた時に、圏域内の医師が得意とされている事を知り、対応してもらったことがある。[リハビリ職]
- ・「見て欲しい」と言われるだけでは、緊急なのかそうでないの分からない。情報を密に貰えると助かる。[訪問看護師]

お互いの特徴や強みを、連携に活かすには？

- **圏域内に、連携している事業所があるということ**（「訪看があるから」「健康サポートを行う薬局があるから」という安心感）が、**坂ノ市圏域の強み**。
- **坂ノ市圏域には一通りのサービスが揃っている。誰が何をできる・何が得意だといった強みが分かると、利用者にとっても自分達にとっても良いと思う。**
- **こうして集まる機会を持つことが、連携につながっていくと思う。**
- **伝える情報の質を上げる／情報の伝え易さを考えると、顔を合わせるのが一番。それがお互いの強みを活かした連携に繋がるのではないか。**
- **多職種の視点を持ってお互いの強みを活かし、医師を中心に連携をしていけたら。**

- ・「顔の見える関係」は、坂ノ市圏域はできていると思う。これからは一歩進んだ、関係作りが必要なのでは。
- ・職種間で認識が異なる場合があるので、利用者の状態を共有するには、写真や動画を活用できると良い。
- ・利用者の情報を、スピード感を持って共有できる SNS など ICT を活用したツールがあると良いのではないか。

----- 以上。 ご参加いただきました皆様、貴重なご意見をありがとうございました。-----